

問

櫻沢 保議員  
さくらざわ たもつ

# 給付型奨学金の新設について

## 答 奨学金制度については今後も検討していきます(町長)

問

①全日本教職員組合の1741市町村に対するアンケート調査結果によると、

i 返済不要の大学生向け奨学金制度を独自に設けている市町村は6.3%の109市町村、高校生向けは16.6%の289市町村で既に実施されています。

また、子どもたちの競争心を促すためにも、インセンティブを付与する観点からも、努力し特に優秀な成績をおさめている生徒学生に返還不要の奨学金を付与する給付型奨学金制度を新設してみたいかがか。  
ii 卒業後、美里町に居住

する奨学生については、その居住期間により奨学金の返還を免除し、10年間を経過した者は全額返還免除とするなどの工夫も試みて、若者の定住促進策の1つとしてみてはいかがか。

②奨学金の借り控えについて  
i 大学卒業時に、平均310万円ほどの借金があり、また、大卒の3人に1人が就職後3年以内に離職し、結果として、奨学金の返済に苦しんでいる若者が多くおり、滞納者は実に17万人と言われています。

ii 大学卒業生の奨学金の返済額は、月々2万円。

これに国民年金保険料月1万6490円を足すと、毎月、実に3万6490円の支払いとなる。このような状況もあり、将来の負担を懸念して、大学進学を諦めたり、奨学金の借り控えをする傾向が、強くなっている指摘されています。

iii 平成28年度、奨学金を借りている町内の大学生等はわずかに5人。平成29年度の予定はわずかに2人。高校生は1人もいません。また、今年3月1日現在の奨学金の貸し付けの申込みは0件。美里町においても奨学金の借り控えが、生じているのではないか。また、

進学を諦めている子どもも大勢いると思います。  
給付型奨学金の新設及び借り控えについて、町長の答弁を求めます。

町長

①町独自の給付型奨学金を設けるのではなく、国県町等の就学支援制度を活用することで経済的な理由で進学を断念せざるを得ない生徒を後押ししていきたい。

また、優秀な成績をおさめている学生を奨励することは、意義があることと思われるが、今後の奨学金のあり方を検討する際に研究したい。  
②借り控えについては、町村部では、借りることに抵

抗も見られるが、学校とも協議しながら、借りやすい方法を選ぶということを十分に考えなければならぬと思います。



私たちの未来を応援してください。



問

# 町商工会の育成について

根本 孝代 議員

**答** 町の活性化に必要な事業は内容を精査し  
上乗せ助成も考える(町長)

**問** 平成29年度一般会計予算書によると、商工会育成助成金は昨年度に比べ230万円減額となっています。予算査定では、町内商工業者の経営安定、商工業の充実を考慮していると思いますが、減額の基準がいまいち判然としませんが、商工会の育成について、どのように考えているのか伺います。



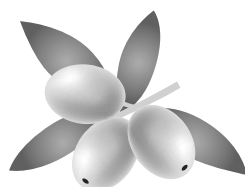
金などから、直ちに必要となるとは考えにくい金銭もありました。その中で、急激な削減による団体への影響を考慮し減額しました。商工会の事業については、予算削減後も対応できると考えています。今後の商工会育成については、国や県、商工会連合会の補助金を積極的に活用し、後継者対策や資質向上の講習会などを行っていただきたいと考えています。町の活性化に必要な事業は、商工会との協議の中で内容を精査し、上乗せ助成も考えています。また、商工会館への町

## 新たな名産品について

**問** 加工品については、円良田農産物販売所内に搾油機が導入されて、既にエゴマ油として販売されており、エゴマのほか菜種やゴマの油の加工も可能であり積極的な活用が望まれます。そこで搾油機の活用方法として、近年の健康志向やオリーブの持つ平和の象徴などのイメージから、エゴマ栽培のほかにオリーブ栽培を加え、新たな

名産品としてはどうでしょうか。

**町長** オリーブ苗を取り寄せて、円良田エゴマクラブで試験栽培をすると思っています。町内には普及していないことから、栽培技術や品種の適性の研究を行いたいと考えています。



オリーブの実

**町長** 過去の商工会の収支決算書や商工会職員への聞き取りから、削減

額を判断しています。また、繰越金や、若い職員への世代交代の差額、事業運営準備

金を判断しています。また、繰越金や、若い職員への世代交代の差額、事業運営準備

員への聞き取りから、削減額を判断しています。また、繰越金や、若い職員への世代交代の差額、事業運営準備

美里町商工会のふれあいサービスは、身の回りで困ったことを協力ボランティアの人がお手伝いしてくれます。お問い合わせを♪



問

# 高齢運転手の自動車事故について

原田 敏夫 議員

**答** 町全体の交通事故の減少を図る(町長)

**問** 各地で高齢運転手の自動車事故が多発しており、さいたま市では、81歳の高齢運転手がアクセルとブレーキを踏み間違えて2人が死傷、別の地域では82歳の運転手が、高速道路を逆走して接触事故を起こしています。美里町では、年々高齢運転手が増加傾向にあり、高齢者の負傷事故も発生しています。

**町長** 町としては、高齢者はもちろんのこと、美里町全体の交通事故の減少を図る施策を関係機関と協力し、ソフトとハードの両面から講じていきます。ハード対策では、街路灯、カーブミラー、区画線及び交差点注意看板の設置を引き続き実施するとともに、抑制効果を目的とした危険交差点への監視カメラ及び看板の設置、幹線道路への街路灯の設置を新たに実施いたします。

**問** 運転免許証自主返納者には、平成28年度は何名いたのか、今後の取り組みについて伺います。

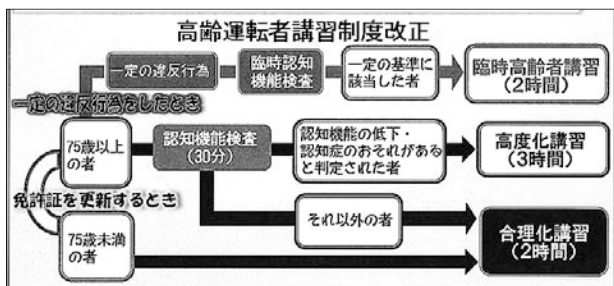
**町長** 町の高齢者運転免許証自主返納支援事業において交付した人数は、平成26年度17件、27年度14件で、今年度は2月までに31件の申請があり、昨年11月ごろから急激にふえています。公共交通タクシー利用料金補助事業等を町民の皆様にお知らせすることにより、運転免許証の自主返納に対応していきます。



県内市町村別の交通事故発生率は本庄市1位、上里町2位、美里町3位です。平成28年12月現在、高齢者人口3290人中、負傷者数は17人です。町として、今後の交通事故減少に向け

**問** 県警の調査では、65歳以上の高齢運転手の8割以上が運転免許証の自主返納に消極的であること

とが意識調査の結果わかりました。自動車運転する目的は、買い物65.7%、通勤12.1%、通院10%、その他12.2%であり、運転が日常生活から切り離せないものです。当町においても大きな自動車事故が起きないよう、自主返納についての考えを伺います。



出典：埼玉県警察本部

道交法が改正され、75歳以上のドライバーは、認知機能(記憶力や判断力)について、より厳しいチェックを受けることになります。



美里MSミミジ

田端 恵美子議員

# 問 こども医療費助成制度の18歳までの拡大について

答 限られた財源の中で総合的な観点から判断していく(町長)

問 子育て支援の一環として、子どもたちが安心して必要な医療が受けられるように、医療費の一部負担をできないものか。

63市町村のうち8市町村が助成をしていますが、なぜ児玉郡市はできないものか。お隣の寄居町、東秩父村、長瀨町、熊谷市ではもう助成をしています。子どもたちのためにも頑張る未来への投資ということで、対象年齢拡大に伴う人数と予算額をお知らせください。

町長 本町で対象年齢を拡大した場合に新たに助成の対象となる人数は323名です。医療費につ

いては、実績がありませんので、平成26年度、人口1人当たり国民医療費の年代別医療費自己負担額等から試算すると、増加する予算額は1年間で750万円程度と見込まれます。対象を拡大し、高校生を含めた対象者は1670名となり、予算額は4739万円程度となります。子育て支援において、こども医療費助成は重要な施策ではありますが、限られた財源の中でどのような子育て支援施策を充実させていくべきなのか、総合的な観点から判断していくことも重要と考えています。

## 給食費の無料化について

問 日本では2012年に「子どもの貧困率」が16・3%、実に6人に1人が貧困状態にあることが発表されました。少子化対策や子育て世代の経済的負担の軽減を図り、より一層の子育て支援を推進する子どもの貧困対策として、給食費の無料化についてどうお考えですか。



おいしい学校給食

給食費の無料化を実施するために必要な補助金額を平成29年3月8日現在の児童生徒数から試算してみると、小学生が545人×4000円×11カ月でございいますので、2398万円、中学生が300人×4700円×11カ

## 教育長

学校給食は、児童生徒が食に関する正しい知識と食習慣を身につけるために、学校教育活動の一環として実施をしています。

経済的に厳しい状況であれば、就学援助制度等を利用してきょうよう、引き続き保護者の方に周知していきます。

## 問

# 遅れていたインフラ整備を急ぐ必要があるのではないか

柳沢 章議員

答 道路改良等の工事にあわせて検討したい(町長)

問 スマートインターチェンジ関連事業も

ほぼ終了しました。今後においては遅れていた住民の生活環境関連事業に着目し、インフラ整備を急ぐ必要があるものと思われれます。特に水道管の口径が小さ過ぎて消防車のタンクに直結できない地区もあります。消火活動には消防車のタンクに直結できる口径65ミリの消火栓が必要になります。また、防火水槽が設置されていても、わずかに数分で使い切ってしまうと聞いております。

最近では、新潟県糸魚川市の大規模火災や埼玉県三



口径40ミリの消火栓

芳町の倉庫火災など多くの火災が発生しており、全国で尊い生命が失われております。住民の生命・財産を守る上でも、消防車のタンクに直結できない地区を解消することが行政の責務であると考えます。

## 町長

消防水利のうち消火栓につきましては、ご指摘のとおり、口径65ミリ未満の消火栓も存在しています。消防車との直結は困難ですが、備えつけのホースを用いた初期消火活動や防火水槽への給水施設として有効な水利と認識しています。このような口径の小さい消火栓の入れかえについては、道路



改良や水道管の布設替えなどの工事にあわせて検討していきたいと考えています。

消防水利が不足している地域につきましては、消火栓とあわせ、防火水槽の新規設置も進めていきたいと考えています。既存の消防水利活用と新たな消火栓や防火水槽、街角消火器等の設置を進め、遅れている火災報知器の普及啓発や広域消防美里分署、美里町消防団及び行政区等と連携し、町民の安心安全を確保するよう努めていきます。

